Q-AOS 九州大学 アジア・オセアニア研究教育機構　ブラウンバッグセミナー

Brown Bag Seminar No.131

2024 2.14(水) 12:10〜12:50

12:10-12:15	◆演者紹介
12:15-12:40	◆プレゼン
12:40-12:50	◆質疑応答

オンライン (Zoom)

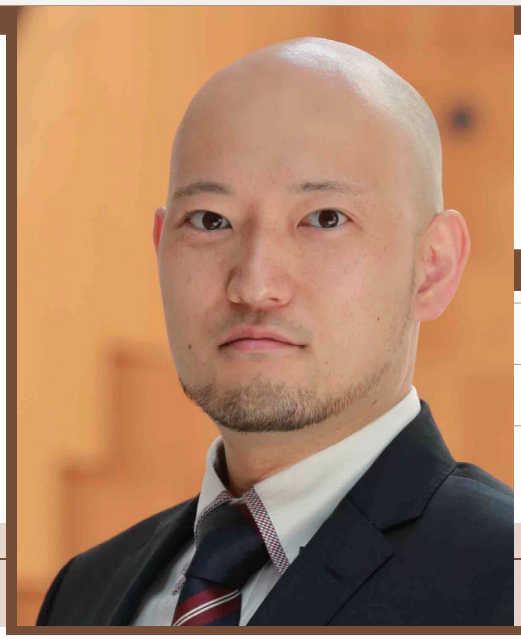
登録はこちら

https://temdec-med-kyushu-u-ac-jp.zoom.us/webinar/register/WN_pPEMiCZDQ_2SnDHIb1K3WA

【技術支援】九州大学 Q-AOS & TEMDEC

発達障害と心理的バリアについて

司会：田中 俊徳 准教授 (Q-AOS 研究推進コーディネーター)



4 質の高い教育をみんなに　10 人や国の不平等をなくそう　16 平和と公正をすべての人に

Key Words

発達障害

社会モデル

態度

横田 晋務 准教授

九州大学 基幹教育院 自然科学実験系部門

専門は発達障害学、認知神経科学です。2013 年に東北大学にて博士号を取得後、東北大学加齢医学研究所にて、子どもや発達障害児を対象とした脳機能や脳形態に関する研究や IQ などの認知機能と脳形態との関係などについて研究を進めてきました。2017 年に九州大学に着任後は、主に発達障害における社会的なバリアに焦点を当て、発達障害者を取り巻く周囲の存在が発達障害に対してどのような態度や印象を持っているのかという点について、研究を進めています。

また、九州大学キャンパスライフ健康支援センターインクルージョン支援推進室にて障害者支援に携わっています。

発達障害児･者は社会的なコミュニケーションが苦手だったり、コミュニケーションの仕方が独特であるため、他者と人間関係を築いたり、適切に維持したりすることが難しく、発達障害のない人に比べて約 4 倍も社会的な排斥（いじめなど）を経験すると報告されています。

このような問題に対し、障害の個人モデルでは、障害者個人の障害特性を問題とする一方で、社会モデルにおいては、障害を個人と社会との間の障壁と捉えます。上述の社会的排斥については、発達障害者のコミュニケーションの取り方に対して異質なものと考える周囲の心理的なバリアこそが問題であると考えられます。

プレゼンテーションでは、発達障害者に対する周囲の心理的なバリアとして、発達障害に対する態度についての研究成果を紹介し、心理的バリアをどのように解消できるのかという点について考えてみたいと思います。